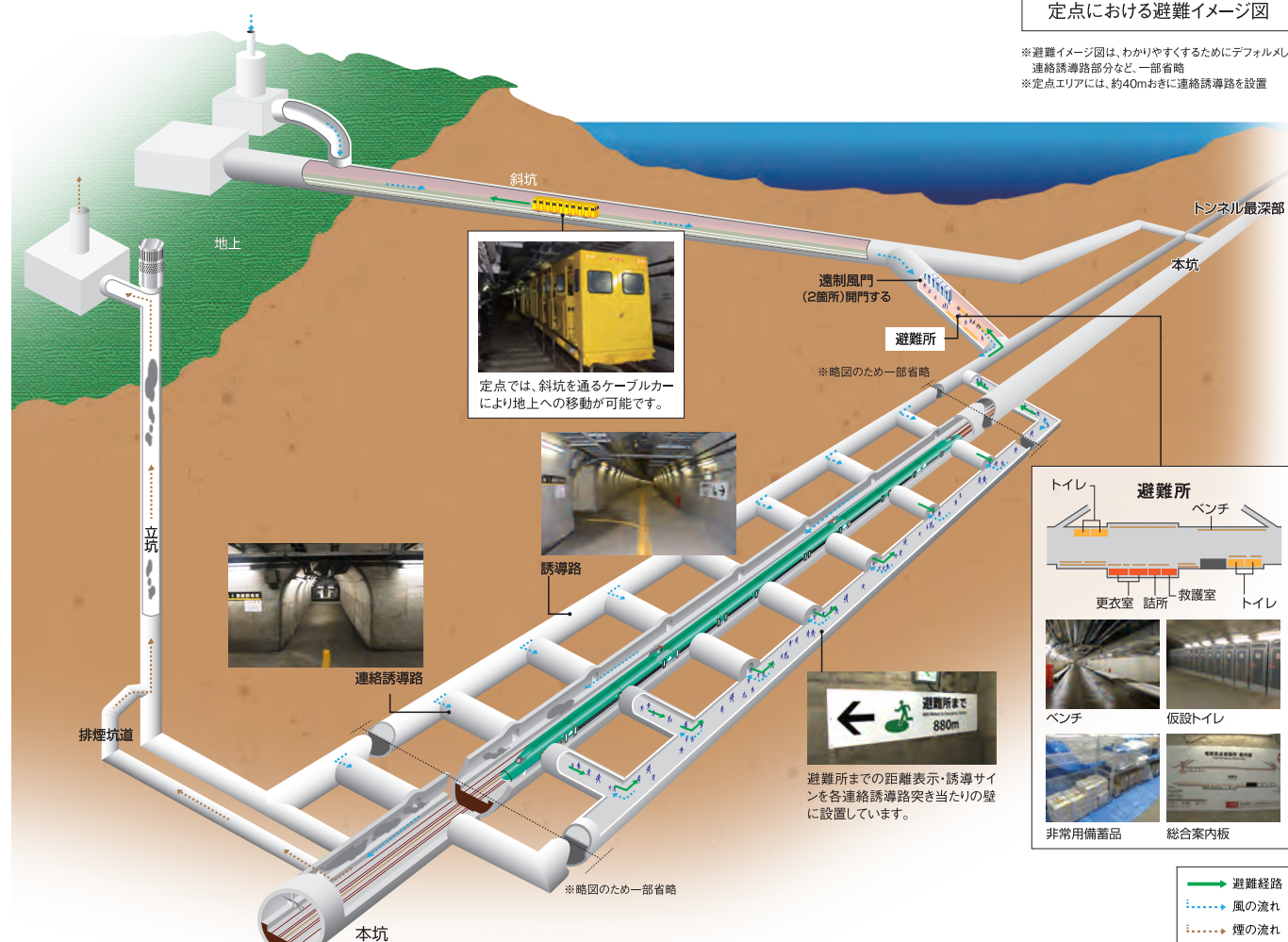


北海道新幹線

青函トンネルの防災・避難誘導設備



青函トンネルの構造と安全対策

青函トンネルは長大な海底トンネルであり、最深部に向けて下り勾配が長く続いています。この特徴を踏まえ、お客様の安全を守るために数多くの設備を設置して安全対策を行っています。

●避難誘導設備

事故が発生した際は、トンネル内の「定点(旧海底駅)」を避難誘導に使用します。定点からは「救援列車への乗り換え」「ケーブルカーまたは徒歩」によりトンネル外へ移動します。

お客様は、定点のホームから換気された避難所へ誘導されます。避難経路には照明、カメラ、スピーカーが設置されており、新幹線運行管理センターから避難方向などの指示が伝えられます。

●防災設備

トンネル内各所にある列車火災検知設備が、列車の異常温度を検知した場合、列車は速やかに最寄りの定点、または停車場に停車します。

定点に停められた車両は、毎分7tの水を40分出し続けられる消火設備で直ちに消火されます。災害時の停電を防ぐために、函館・青森から合計4ルートで電気を確保し、さらに緊急用の自家発電装置を設置しています。また、地震や異常出水の対策も行っています。

〈列車火災対策の主な設備〉

列車火災検知設備

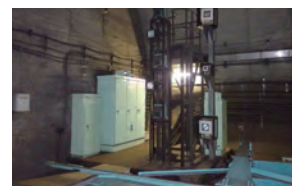
赤外線カメラを利用した火災検知器や煙検知器を設置しています。

排煙設備

列車火災が発生し、列車が定点に停止したときに、避難するお客様が煙にまかれることのないような排煙方式にしています。

消火設備

青函トンネル進入前あるいは進入後に火災が発見された場合、列車を停止させ消火活動を行います。竜飛定点と吉岡定点には水噴霧設備(スプリンクラー)を設置しています。



列車火災検知設備(吉岡定点)



排煙設備(吉岡定点)



水噴霧設備(吉岡定点)



地上消火設備(湯の里知内信号場)